

(令和2年度)
学校自己評価書

園番号	園名
716	奈良市立東登美ヶ丘こども園

716奈良市立東登美ヶ丘こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	・幼保連携型認定こども園教育・保育容量より、目指す子どもの姿を明確にし、園ビジョンを考える。「奈良市こども園カリキュラム」を基にし、教育・保育活動を計画する。保護者アンケートの実施、学校評議員の意見により評価を得ている。	・教育目標達成に向け研究主題を設定し、具体的な計画につなげていく。月の指導計画、週案は学年ごとに見直し、保育実践につなげていった。 ・各行事終了後に保護者にアンケートを実施、振り返り、反省評価をした。	A	・園の教育目標や発達に応じた保育内容の検討を行い、環境構成や援助など職員間で話し合う機会をもちながら進めることができたか。 ・保護者からのアンケートより、肯定的な評価をいただいたか。	・3-5歳児の園児が生活する中で、発達段階に応じた教育・保育を工夫し継続していく。 ・保護者アンケートの少数意見も受け止め、検討していく。
		② 教育計画の作成			A		
		③ 教育課程の編成			B		
		④ 教育活動の評価			B		
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	・実態と目標を視野に入れた計画立案をする。 ・保育内容全般について各学年及び学年相互で話し合い、環境構成、援助、教材の工夫などに取り組む ・一人一人に応じた指導に努め、指導計画に取り組んでいく。	・園内研究会を行ったり、多様な経験ができるような保育内容を検討したりして教育内容の充実を図った。 ・保護者アンケートでは「園生活を楽しんでいる」という評価をいただいた。遊びや生活の様子をたよりや園内掲示、ホームページなどで具体的に知らせ、子供の成長や園の教育に理解を深める。	A	・一人一人に応じた指導に努め、指導計画に取り組んでいるか。 ・「奈良市こども園カリキュラム」に添った保育内容になっているか。 ・日々の振り返りと全学年で環境の見直しを振り返りを積み重ねることで幼児期の発達をとらえられたか。	・振り返りの時間を確保し、保育者の指導力の向上に向けての研鑽を重ねる。 ・個々の保育者が教材研究に努めるとともに、互いの保育の振り返りの中で環境構成の工夫や援助の仕方について学び合えるようにする。
		② 保育内容の精選			B		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
		④ 評価			A		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・職員研修・会議を通して立案精選を十分に検討する。新型コロナウイルス感染予防として市の方針をふまえ、行事の検討を行う。	・市の方針に基づき、行事を行うに当たり、感染予防対策を徹底する。 ・行事がないので、園児の育ちにつながるような保育内容を考えるようにする。 ・行事を行うに当たり、職員間で感染予防対策の知識を共有する。	A	・新型コロナウイルス感染拡大予防のため行事の内容を検討できたか。 ・日々の振り返りや保育内容の検討を職員間で行ったか。	・園行事が少なくなり、園の様子を見てもらえる機会が減ってしまった。保護者に保育内容を伝える機会をもつことで理解を求めようにした。
		② 行事内容の精選			B		
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・日常生活の中で自分も友達も大切にし、自尊感情を高める。 ・人権意識を高める教材研究や正しいものの見方や考え方など職員間でも話し合う。	・職員間で「人権擁護のためのセルフチェックリスト」「子どもの権利を保育に生かそう」等で人権教育の重要性を認識する。 ・情報交換し合い、園児理解に努めるとともに、一時預かり保育利用において異年齢の中で相手を思いやる気持ちやいたわる気持ちが育つ環境に努めた。	B	・園児の様子を職員間で話し合うことで一人の捉えではなく、多様な捉え方で考えることができ実践につながったか。	・子どもの自尊感情や仲間意識を高めるための保育内容を検討し、継続していく。
		② 保育内容の精選			B		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	・園児の家庭背景を十分に理解する。 ・連携を密にする。	・一人一人の園児の心の内面を理解するために、情報交換に努め、一人で抱え込まないようにするとともに、職員間で十分話し合うようにした。	B	・職員室で普段から方法交換をしたり、子どもの姿を話し合うことで、共通の課題や見通しを持った保育につなげることができたか。	・今後、全職員が一貫性のある統一した指導をすることが大切である。 ・関係諸機関との連携をとることの重要性を認識しておく。
		② 教育相談・幼児理解			A		
		③ 家庭との連携			A		
		④ 関係諸機関との連携			B		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	・クラス担任、預かり保育担当者、未就園児保育担当者、特別支援教育支援員が連携を取り、園児の様子を毎日共有した。 ・気になる園児の記録を取り、状況を園全体の問題として対応できるようにした。	・遊びの中でのトラブル処理について、担任・保護者・園との連携を密にし、安心して通える園であったか。 ・気になる園児を全職員で共有し、一人で抱え込まず、話し合える雰囲気づくりや気軽に話し合う時間をもてたか。	A	・信頼関係を構築するために、一人一人の園児を見つめ、連絡を丁寧で密にしていかなければならない。
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている			A	
			・各学級の状況を園組織として共有できている			A	
			・保護者や地域と連携できている			A	
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	・支援が必要な園児や発達障害を持つ園児の実情や支援方法について共通理解をする。 ・当該園児に対する支援プログラムを作成する。	・教育相談課、子ども発達センターの専門の先生による指導を受け、保育内容や関わり方について共通理解する。 ・専門機関と連携を取り、園児の観察保育指導、園巡回相談、保護者面談を随時行った。 ・担当のコーディネーターから支援児の援助の仕方の研修をしてもらい、共通理解をする。	A	・一人一人の課題について職員が共有することで、支援方法が統一できたか。 ・保護者との連携を密に行い、園児の育ちに繋がる様に務めたか。	・支援を要する園児が多くなっていくことへの支援員の増員や教育時間での支援時間の確保を望む。 ・すべての園児にきめ細かな指導ができるよう、努力を続けていきたい。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容			B		
③ 指導方法の工夫改善		B					
④ 家庭との連携		B					
⑤ 関係機関との連携		A					

(令和2年度)
学校自己評価書

園番号	園名
716	奈良市立東登美ヶ丘こども園

716奈良市立東登美ヶ丘こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に基づく園経営について考えを話し、リーダーシップを発揮する。 ・職員にとって安心安全な園運営を目指し、職員が相互に理解し協力し何でも話し合える温かい雰囲気を作り、情報交換・課題検討の場にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に基本目標を明らかにし、取り組みの重点を伝え共通理解が図れた。 ・職員の経験年数は様々で、私立経験者や保育所経験者もあり、それぞれが経験してきたことを保育現場や会議等で出し合いお互いの能力を高めあう。 ・学年主任を中心に保育内容を検討し、園全体の方向性を確立するようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園長のリーダーシップと全職員でビジョンを共有し取り組めたか。 ・クラス担任と預かり保育担当者、特別支援教育支援員、未就園児保育担当者が連携し、それぞれの立場から園児を見取り、共有でき園児の育ちに繋がったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育経験の少ない保育者が意欲的に保育できるよう具体的に・園経営への一人一人の参画意識を高めて行く雰囲気作りに努める。 ・今後も各自がワークライフバランスが取れるよう、業務の見直しや工夫を行う。
		② 園経営目標・方針			B		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			B		
		④ 園務分掌等の連携			B		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B		
		⑥ 会議の結果			A		
		⑦ 職場の人間関係			A		
⑧ 園評価の実施	A						
(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究や各種研修を行い、教育の資質向上を目指す。 ・園外研修に参加し、学んだことを伝え合い本園の実際の中で生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用教員研修を年10回、園内公開保育、園内研修を行い全職員の研修・学びの場となった。 ・中堅教諭の研修として、園内公開保育、園内研修の進行、研修のまとめ等を行う。 ・事例研修については期ごとに事例をかき、職員間で研修し、意見交換をした。 ・保育スキルアップのため各種研修会、ウェブ研修に参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の研修会に参加、報告し合い、各自のものとして実践に生かされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が課題意識をもち、保育実践や指導力を高められるよう研修の場を保証していく。 ・記録をとり、そこから見える課題をお互いに検討できる場を継続していく。 	
	② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			A			
	③ 園外の研修への積極的参加			B			
	④ 園外研修内容の報告や伝達			A			
	⑤ 研修成果の普及			B			
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で安全管理マニュアルに沿って危機管理体制について協議し、安全教育について意識して取り組む。また、危機管理については、家庭や地域との連携の在り方を明確にする。 ・園児を事故、災害、不審者から守り、生命と健康を保持する月1回の避難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応については献立配布時の確認、毎朝確認、給食時の確認等複数回のチェックする。 ・年間を通して指導計画に基づき、火災、地震、不審者の避難訓練を行った。実施後、見直しを行うようにし、今後に魚投げるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した避難訓練は、園児たちの体験活動を通して身につけてきたか。 ・日常生活においても危険を回避する力が身につけてきたか。 ・全職員が避難訓練の目的を自覚し、自分の役割がわかり行動できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者と情報を共有し、危機管理体制を強化していく ・危機管理意識を常に職員全員が持つようにする。 ・様々な状況を設定し避難訓練を行い、何か起こった時にどう判断しどう行動するか身に付けるようにする。 	
	② 防災計画の立案			A			
	③ 危機管理体制の整備			A			
	④ 安全指導の工夫改善			A			
	⑤ 家庭との連携			B			
	⑥ 関係機関との連携			B			
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・健康安全な生活に必要な生活習慣や情緒の安定に努め、心身ともに健康な園生活の育成に力を入れる。 ・アレルギー対応における職員研修並びに周知認識を行い、安全な食の提供の強化を図る。 ・新型コロナウイルス感染予防を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス予防の対策として、正しい知識をもち、マスク着用、手洗い・うがい・換気などを行い、家庭にも注意を促した。園内の消毒、玩具の消毒など職員間で徹底する。 ・保護者、アイコメディカル、保育総務課等と連絡を取り合い衛生管理やアレルギー対応の共有に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時の衛生管理を各クラスでも意識して行ったり、コロナ感染に対する正しい知識をもち、予防に努めたか。 ・1年間を通して毎日の生活リズム、挨拶や手伝いなどの家庭教育の大切さを啓発してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を徹底し、手紙や保育内容で啓蒙し、手洗い、うがい、マスク、消毒等、習慣になった。 ・マニュアルの見直しを行った。 ・職員、保護者、園児が感染予防に努め、共有することが大切である。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			B			
	④ 関係機関との連携			A			
	⑤ 昼食の衛生管理			A			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の会議がなくなったので、自分から地域の情報収集にあたる。 ・園日より、クラスだよりの配布、ホームページの更新に努め、園教育の理解を求める。 ・年3回の学校評議員会を行い、園の様子や子どもたちの育ちを見ていただくとともに、園の教育や園の運営について意見をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事は参加できるものであれば参加し、園の情報発信を行うとともに地域との交流を図る。 ・PTA活動についてはコロナ禍で活動ができない部分があるので、参加体制や方法を吟味する。 ・学校評議員会では園の実情を伝え、課題を共に考えていくことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園としての内容を理解して頂くよう情報発信をし、より良い方向に導くことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを内容を充実し、定期的に更新する。 ・地域への発信を継続し、園教育の理解推進に努める ・子育て支援センターとして地域の中で活動を継続する。 	
	② 園(保育)公開			A			
	③ 小学校との接続・連携			B			
	④ こ幼保との連携			B			
	⑤ PTAの活性化			A			
	⑥ 地域教育協議会との連携			B			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・園目標、研究主題に添った環境整備を整える。 ・園内における安全管理、衛生管理の徹底を図る。 ・遊具安全の確認を職員間で行い、日頃から意識しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や玩具の消毒等の衛生管理を行う。 ・定期的に遊具や施設の安全確認を行い、危険箇所を整備したり、子どもにとって安全な環境を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検で危険箇所の改善が出来、安全に園児が遊べたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全でかつ、豊かな体験が出来る環境作りに心がける。 	
	② 施設設備の有効利用			B			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓、公文書等の保管について共通理解をする。 ・個人情報の管理についての研修に参加、職員の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書を整理し綴じている。 ・電子媒体の管理や、配布物の内容について十分吟味した。 ・個人情報の取り扱いについては職員間で共有する。 ・保管は鍵のかかる所で、管理の徹底を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵かけは、職員一人一人が声確認を行い、習慣化している。 ・個人情報の取り扱いについては職員全員がき管理及び意識向上は出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な収納・保管場所の習慣・徹底を意識と責任を持って取り組む。 ・PTAにも啓発し、意識を高めていく。 	
	② 公文書の作成			A			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			B			